



石井病院

じんけいクリニック

Now Vol.138

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2019.9

石井病院 感染対策委員会 活動報告 及び 手指衛生強化週間 結果発表

院内感染対策委員会の活動についてご報告させていただきます。

感染対策委員会では、月に一度院内感染対策委員会を開催し、多職種間で感染状況報告や現状の問題点や課題について話し合っています。週に一度定期的に院内環境ラウンドを実施しており、年に4回は明石医療センターで開催される地域カンファレンスにも出席しています。近隣病院の院内感染対策委員の代表が出席し、あかし健康福祉事務所の方を交え、市中での感染症の報告、薬剤耐性菌や現在流行の感染症や兆しなど、地域で予防できる対策などを課題に話し合いを行っています。近隣地域で感染症対策に取り組むことは、地域の住民や入院患者さまにとって安心して住みやすい街づくりになっています。当院もこの取り組みに積極的に活動し貢献しています。院内での取り組みに手指衛生強化週間の実施、全職員の勉強会を年に2回設けています。今年度第1回の勉強会のテーマは「食中毒」で、講義と手指衛生強化週間の結果発表を行いました。近年ネット社会で、情報氾濫が多い中で、医療従事者として正しい知識を身につけておく必要があり、テーマを食中毒にする事で、普段の生活から予防ができ、皆が関心を持てる内容になりました。今回の勉強会のアンケート集計からも健康に対して意識の高い回答が多く得られました。意見の中に衛生管理や感染経路、予防などの言葉が出てきていたことは大きな収穫だったと感じています。当日の参加率は例年並みでしたが、参加できなかった方へのDVD視聴による学習は高評価で合計参加率が90%以上になっています。手指消毒遵守率については、全体的に昨年度より低迷していますが、今年度意識を高く取り組んでいただけた部署や職員の方には感謝いたします。



看護師長

こまつばら ふみこ
小松原 史子

今後も患者様が安全で安心した入院生活を送ることができるよう感染対策委員会一丸となって取り組んでいきたいと考えています。お忙しい中での院内感染対策勉強会にご参加いただきありがとうございました。今後も院内感染対策委員会の活動にご協力をよろしくお願いいたします。

手指衛生強化週間 結果発表

感染対策委員会 院内勉強会 2019年7月26日（金）開催



部署別：通所リハビリテーションじんけい

個人別：通所リハ 伊藤 和美 介護福祉士



部署別：透析室

個人別：通所リハ 石川 律子 介護福祉士



部署別：3階病棟

個人別：3階病棟 吉田 尚子 看護師



「食中毒」についての勉強会

石井院長より表彰状を受けとる
通所リハビリテーション職員



じんけいクリニック

トルリシティ（グルカゴン様ペプチド-1受容体作動薬）投与での血糖値コントロール

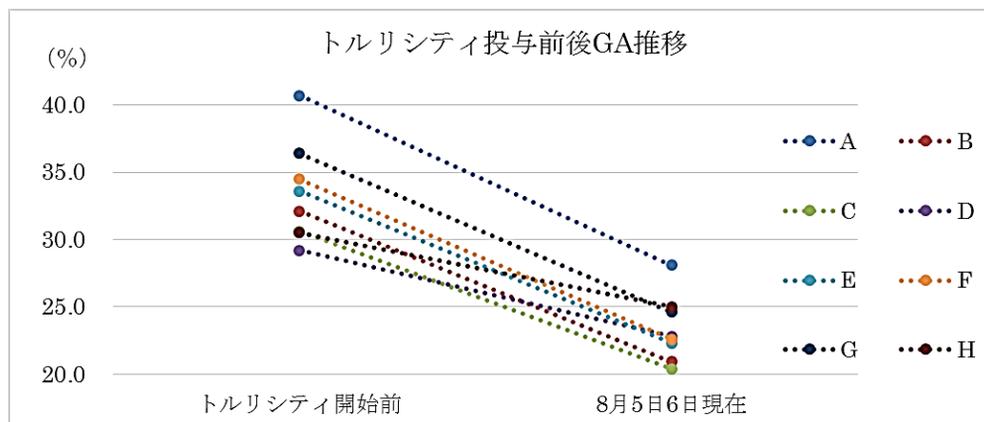
末期腎不全患者さんへの血液透析治療においては、ウルトラピュアな水の使用、適切な細胞外液コントロール、過不足のない薬剤投与、貧血やカルシウム、リン、副甲状腺ホルモン値（いわゆるCKD-MBD）の厳重な管理、などに加えて、背景に糖尿病をもつ透析患者では、血糖値のコントロールもまた最重要項目であることは論を待ちません。

しかし一方でこれまでの治療では、食事摂取カロリーの厳格なコントロール、DPP-4阻害薬（トラゼンタやエクアなど）の服用、種々のインスリン注射剤投与など、既存のあらゆる方法を駆使しても、残念ながら血糖値コントロールに難渋し、ある程度までの数字で諦めざるをえない患者さんが一定の割合で存在してきました。

以上のような背景を鑑み、当院では昨年9月からのこの1年の間に、難治性血糖コントロール不良の患者さん8名（グリコアルブミン値が28パーセント以上かつ2型糖尿病の方）

に対し、同じインクレチン関連薬でありながらもDPP-4阻害薬とは異なる**グルカゴン様ペプチド-1受容体作動薬（製剤名:トルリシティ、2015年9月発売開始）**の投与を順次開始し、厳重にフォローしてまいりました。方法は看護師さんが**週1回のみ**、透析終了後に0.75mgを腹部に皮下注するだけであり、いたって簡単で、確実な投与が可能でした。

トルリシティ投与前および直近（本年8月）のグリコアルブミン（GA）値の推移は、下記グラフのような結果でした。



関連のある2群の差の検定を統計学的にするまでもなく、8名全ての患者さんで、驚異的な効果が確認されたと思われるため、症例数がさほど多くはなく、サイエンス的ではありませんが、あえて今回ここに提示させていただきます。

同じインクレチン関連薬でありながらもDPP-4阻害薬(トラゼンタやエクアなど)の内服では全く達成されなかった効果が如実に確認されました。一方で、副作用として最も危惧される低血糖発作は、回診時に、その他のインスリン製剤の減量などを含めて注意深く微調整してきたことともあり、結果的には全例で経過観察中一度も認められませんでした。

じんけいクリニックにおいては、今後も既成概念にとらわれず、現今の医療から一歩でも二歩でも、僅かでもより良い透析医療を模索し続け、当たり前前の医療を当たり前に行う、じんけいway、オーソリティ打倒の医療を、地道に着実に、slow but steady に遂行し続けてまいりたいと思います。今後ともまた宜しくお願ひ致します。



じんけいクリニック

院長

ふくし よしひこ
福士 剛彦

■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725
平日 9:00 ~ 12:00 14:00 ~ 17:00
土曜 9:00 ~ 12:00
担当 酒見 古門 上野

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院 広報委員会
〒673-0881 明石市天文町1-5-11
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>